

2 研究の実際 > (2) 授業の実際

工 授業実践 (中学校 A 第 1 学年 1 時目)

- ◆本時のねらい: グループでの交流活動を通して、自分や友達の「強み」を知ることができるようにする。
- ◆本時のめあて: 自分や友達の「強み」を知ろう。
- ◆授業前の取り扱い
 - ・グループを意図的に構成し、生徒の心理的な負担を減らすように配慮する。
- ◆指導形態
 - ・「自分Webbing」の活動において、生徒の理解を深めてスムーズな活動を促すために、「強み」の考え方の具体的な例示などを、センター所員 (T 1) と学級担任 (T 2) のティームティーチングで行った。
- ◆本時の展開

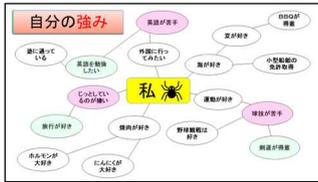
学習活動と授業スライド	・生徒の様子と教師の気付き	○教師の働き掛け
<p>1 3 時間の学習活動の目標を知る。</p> <div data-bbox="153 786 464 965" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これからの3回の授業で…</p> <p>自分や友達のいいところを見つけて、 友だち同士で言い合える</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>みんなが笑顔で、お互いを励まそうなる *すてきな クラス*</p> </div> <p>2 グループを作り、グループ名を考える。</p> <div data-bbox="236 1375 464 1417" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;"> <p>交流活動 (4 人)</p> </div> <p>3 本時のめあてを知る。</p> <div data-bbox="153 1805 472 1984" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>① 自分や友達の「強み」を知ろう</p>  </div>	<p>・新しい学習内容に興味・関心を持って聴く様子が見られた。</p> <div data-bbox="552 792 1074 1184" style="text-align: center;">  </div> <p>【授業開始時の様子】</p> <p>・生徒は授業者の自己紹介を楽しそうに聴いていて、質問する生徒もいた。</p> <p>・生活班になり、友達同士で楽しそうに名前を考えることで、学級の雰囲気が柔らかくなった。</p>	<p>○教師の働き掛け</p> <p>○3 回の授業で、自分や友達の「強み」を見つけ、伝え合う活動を通して、自分や友達の「強み」を知る学習をしていくことを伝えた。</p> <p>○T 1 が自己開示し、話しやすい環境づくりを行った。</p> <p>○互いに意見を出し合ったり話し合ったりすることにより、親和的な雰囲気づくりを行った。</p>

4 「強み」(ストレングス)について知る。

2. 強み(ストレングス)について知る

強み(ストレングス)

人が持っている
考え方、行動、からだ



- ・「先生の『強み』は何でしょう」の問い掛けに対して、自己紹介を思い出しながら、「強み」を見付けて発表した。
- ・多くの「強み」を発表したが、ネガティブ(マイナス)に思えることは出てこなかった。
- ・教師の「自分Webbing」や「理解するポイント」のスライドを提示することで、「強み」についてイメージを持つことができた様子だった。

- スライドを提示し、「強み」の定義と「強み」を理解するポイントについて説明した。
- T1が自己開示したことを改めて確認することにより、その人が持つ「強み」に気付くことができるようにした。
- T1の「自分Webbing」を例示し、ネガティブに思えることも「強み」として捉えることができることを視覚的に理解できるようにした。

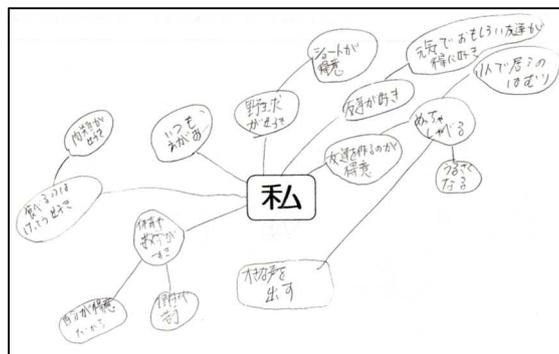
5 「自分Webbing」の活動を行う。

交流活動(4人)

- (1) 自分に関すること(好きなものや苦手なことなど)を書く。

- ・「〇〇が好き」、「〇〇が苦手」はすぐには書くことができた。
- ・時間が経つにつれて、「強み」を思い付いて書くことができるようになった。机間指導のヒントの声掛けで、自分の「強み」に気付く生徒もいた。

- ワークシートを配付した。
- スライドを提示し、活動内容と方法を説明した。
- T1の「自分Webbing」を例示し、ウェビングの書き方を説明した。
- T2がT1の「自分Webbing」を参考にし「強み」を考えたものを例示し、「強み」の考え方を説明した。



【Aさんの「自分Webbing」のワークシート】

(2) グループの友達のワークシートに、友達の「強み」を考えて書く。

(3) 友達を書いてくれた「強み」と「自分Webbing」を参考に、自分の「強み」を考えて書く。

(4) 「聴き方のポイント」を知る。

7. 自分の強み(ストレンクス)をグループで伝え合おう

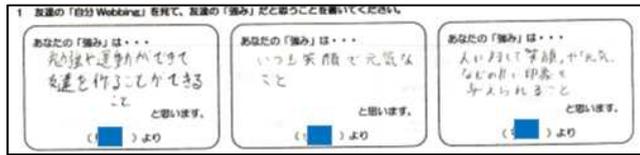
【聴き方のポイント】

- ① 相手を見る
- ② うなずきながら聴く
- ③ 最後まで聴く



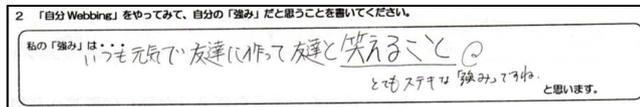
(5) 自分と友達の「強み」を伝え合う。

- ・ T 2 が T 1 の「自分Webbing」を使って、「強み」を例示することで、生徒は書き方や方法を理解した様子だった。
- ・ 友達の「自分Webbing」を見て、一生懸命に「強み」を考えている様子が見られた。



【Aさんが記述した友達の「強み」】

- ・ 友達から書いてもらった「強み」を見て、嬉しそうな様子だった。
- ・ 友達の記述を参考にしながら、自分の「強み」を書くことができていた。



【Aさんが記述した自分の「強み」】

- ・ 教師の説明をうなずきながら聴く姿が見られた。

- ・ 自分の「強み」を伝えるのは照れくさそうだったが、笑顔で伝え合う様子が見られた。
- ・ 友達の発表にうなずきながら、真剣に聴くことができていた。



【自分や友達の「強み」を伝え合う様子】

○友達に「強み」を書いてもらったワークシートに目を通す時間を設けた。

○ T 2 が書いた「強み」と「自分Webbing」を参考にしながら考えた「強み」を例示し、自分の「強み」の考え方を説明した。

○ 「聴き方のポイント」を知らせ、安心できる雰囲気の中で「強み」を伝え合うことができるようにした。

○ 「強み」を伝え合うことにより、互いに他のよさに気付くことができるようにした。

<p>6 本時の活動を振り返る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">交流活動（4人）</p> <p>(1) 振り返りシートに記述する。</p> <p>(2) グループで気づきを伝え合う。</p> <p>7 次時の活動を知る。</p>	<p>・1時間の授業を振り返って、自分が気付いたことや感じたことを記述していた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2 今日の学習の気づきや感想を書きましょう。</p> <p>今日の学習では、友達がどんな好きなことがあって、 どういう強みを持っているのか、そして自分の「強み」 は何かを考えることができました。友達に教えら れた「強み」をもっと伸ばしていきたいなと思いま 様々な人の「強み」を見つけて、様々な人と仲良 くなりたいなと思いま。</p> </div> <p style="text-align: center;">【生徒が記述した感想や気づき】</p> <p>・「自分Webbing」をしたときや、友達から「強み」を教えてもらったときの気持ちを、素直に発表する様子が見られた。</p> <p>・友達の発表を聞いて、自分と同じ考えや違う感じ方を知って、喜んだり驚いたりする様子が見られた。</p> <p>・次時もグループで「強み」について学習していくことを伝えると、笑顔で話を聞いていた。</p>	<p>○振り返りシートを配付した。</p> <p>○気付いたことや感じたことを記述してグループで伝え合うことにより、自己理解や他者理解を深めることができるようにした。</p> <p>○次の時間も「強み」について学習することを伝え、興味や関心を継続できるようにした。</p>
---	--	--

◆授業後の取り扱い

- ・学級通信等で学習活動や生徒の感想を紹介しました。
- ・ワークシートや振り返りシートに、教師が気付いたことや感じたことを書きました。
- ・ワークシートと振り返りシートをファイルにとじて、生徒が学習を振り返ることができるようにしました。

◆本時の考察の視点

- ・本時のねらい「グループ活動を通して、自分や友達の『強み』を知ることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

- 振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は90.3%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は9.7%でした（図1）。また、生徒の振り返りシートには、「今まで自分の『強み』について深く考えたことがなかった。今回いろいろな事を知ることができて良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の学習活動やグループでの交流活動に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。

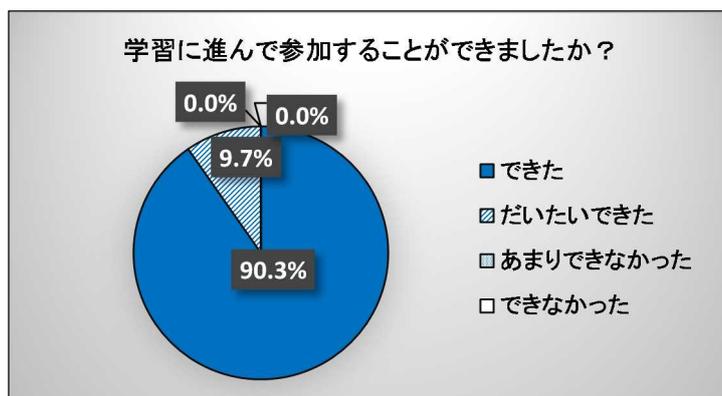


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

○振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は87.1%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は12.9%でした（図2）。また、生徒の振り返りシートには、「友達に自分のことをたくさん伝えられた」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の学習活動やグループでの交流活動を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

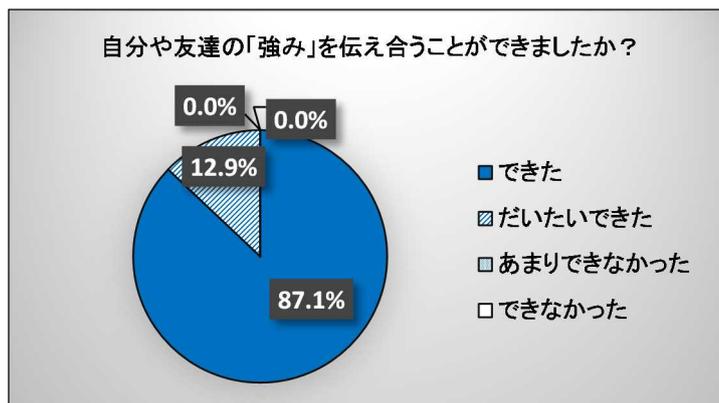


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

○振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は83.9%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は12.9%でした（図3）。また、生徒の振り返りシートには、「自分の好きなものを再度知ることができた」「今日の学習で自分が知らなかった『強み』を知ることができた」という記述が多く見られました。一方、「あまりできなかった」と回答した生徒の割合は3.2%でしたが、生徒の振り返りシートには、「みんなで自分の『強み』を一生懸命探せたので良かった」という記述がありました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の学習活動やグループでの交流活動を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

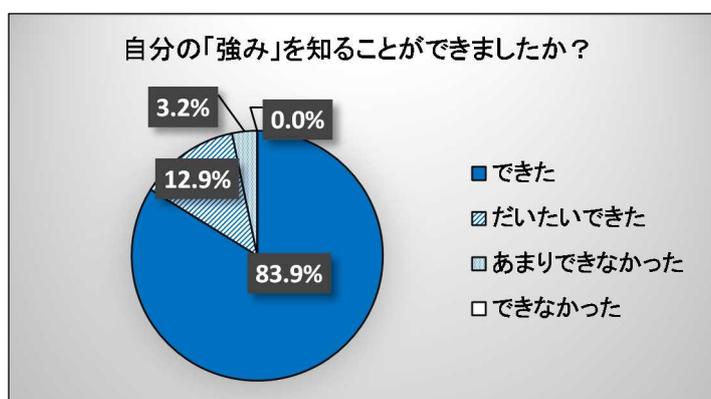


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

○振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は96.8%、「だいたいできた」と回答した生徒の割合は3.2%でした（図4）。また、生徒の振り返りシートには、「友達の『強み』を知ることができた」「友達の『強み』を知ることができて嬉しかった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒は「自分Webbing」の学習活動やグループでの交流活動を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

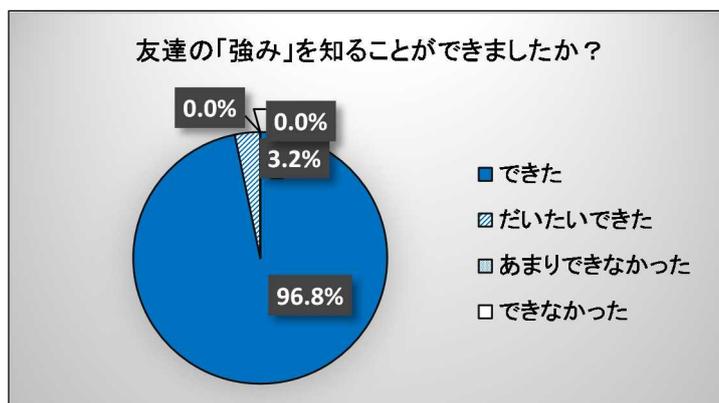


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、1時目の授業において、生徒は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を知り、それを伝え合うことができたことが分かりました。一方、「自分の『強み』を知ることができたか」という質問に対して、「できた」と回答した生徒の割合は83.9%、「友達の『強み』を知ることができたか」という質問に対して96.8%でした。2つの項目を比較すると10%以上の差があり、生徒は自分の「強み」よりも友達の「強み」を見付けることが容易にできたことが分かりました。その理由として、中学生の発達段階における自己肯定感の低さが影響していると思われます。また、友達の個性や性格を肯定的に評価することができ、素直に「強み」を伝えることができたと考えます。「あまりできなかった」と答えた生徒の振り返りシートには、「自分の知らない『強み』を知れて良かった」「友達の『強み』を知れて嬉しかった」などの肯定的な記述がありました。このことから、2時目の授業では、活動の最初に友達から評価してもらう活動を取り入れることで、自己評価が低い生徒も、安心して取り組むことができると考えます。